

令和2年6月1日



# 6月 釜小だより

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>



## 学校再開

校長 菊池 幸博

先月26日に「緊急事態宣言」が解除となり、横浜市立の学校は本日6月1日より段階的に学校再開の運びとなりました。4月8日からおよそ2か月、前年度の3月を含めるとほぼ3か月の長期にわたり学校休業という過去に例のない事態を迎え、保護者の皆様にも多大なるご理解とご協力を賜りました。また地域の皆様からのご助言等いただき、保護者の方々、地域の皆様に支えられている釜利谷小学校を改めて実感することができました。心から感謝申し上げます。

### <段階的学校再開>

1期 6月1日(月)～6月12日(金)

分散登校・集団登校無し(各学級2分割、隔日登校、午前授業、給食なし)

2期 6月15日(月)～6月30日(火)

全員登校・集団登校あり(午前授業、給食なし)

さて、学校再開を果たしたものの新型コロナウイルス感染症の脅威がなくなったということではありません。報道等でも言われているとおり「新しい生活様式」のもと3密を避けながら感染リスクをいかに下げて日々の生活を送っていくかが、第2波・第3波を防ぐカギとなってまいります。学校では子どもたちの机の間隔を可能な範囲であける。換気に努める。石鹸での手洗い指導を徹底する。手すりやドアノブなどの消毒を行う。こうした感染予防対策の取組を行ってまいります。ご家庭におかれましてもどうか「新しい生活様式」のご指導をお願いいたします。

子どもたちの学習について、休業期間の学習保障という問題があります。学校再開前にこれまで失った時間を算出し、夏休みや冬休みの短縮・例年行われていた行事の精選・学習内容の効率化等、できるだけ時間を捻出し、工夫を凝らして、学習保障をしてまいります。今後の学校だよりや各学年だより等をお読みいただき、準備等につきましてご協力いただくことが生じてまいりますのでよろしくをお願いいたします。

長期間の休業は、子どもたちのメンタル面にも大きな影響を与えているととらえています。家族があるいは自分自身がコロナ感染してしまうのではないかと不安。かつてない期間ご家庭にいたために、登校への気持ちが向かない。自粛生活を余儀なくされていたためのストレス。いつまた同じような感染がやってくるかわからないという恐怖心。大人も大きなメンタルへの影響を受けているのですから、子どもたちも同様です。こうした精神的な不安定は、自己の中への閉じこもりや他者への攻撃(いじめ)など様々な形で表面化してきます。学校でも常に気を付けてまいります。ご家庭でお気づきになりましたことがありましたら、担任、専任、スクールカウンセラー等、ご相談ください。

先々のことは断言できません。当面の間は緊張感を持続させながら、日々の学校生活を積み重ねていくこととなります。子どもたちが楽しみにしていた様々な行事は残念ながら中止や形を変えての実施になるかもしれません。それでも私たちが一番大事にすべきことは「子どもたちの安全」です。どうか引き続き保護者の方々、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。